

万博開催の機運醸成 子どもたちの絵画展を提案 総合的な結婚支援へ 庁内PTを設置 2月定例会 公明党代表質問より

2月24日から3月24日まで開かれた平成29年2月定例会で、公明党大阪府議会議員団は府政の諸課題に対し、府民の立場で議論を展開しました。3月3日には八重樫善幸議員(幹事長、豊中市選出)が代表質問に立ち、府が誘致を目指す2025年の国際博覧会(万博)などについて質疑をしました。主な内容は以下の通りです。



▲代表質問する八重樫議員



子どもたちに夢や希望を 2025年万博に向け

万博開催を目指す2025年は今の子どもたちが主役を担う時代になると指摘、地元大阪の機運醸成を図る観点から、子どもたちの絵画を募集・展示する「私の考える万博絵画展」開催を提案しました。

府は「子どもたちに万博にかける夢や希望を持ってもらう機会になる」とし、実施を検討すると明言しました。

結婚支援 少子化対策の重要課題に位置付け

総合的な結婚支援を少子化対策の重要課題と位置付け、全庁組織を挙げて取り組むべきだと主張しました。これに対し、知事は関係部局が連携した庁内プロジェクトチーム(PT)を設置することを明らかにしました。



精神障がい者、難病患者に対象拡大 福祉医療費助成制度

重度の精神障がい者、難病患者は対象を拡充し、年齢に関係なく助成を受けられるようになりました。

一方で対象外となる65歳以上の重度以外の精神通院医療対象者、難病患者、結核患者には当初1年間だった経過措置を公明党府議団の質疑を通して3年間に延長することができました。

「言語としての手話」普及へ 府条例が4月施行

「言語としての手話」の認識の普及や、聴覚障がい者が乳幼児期から家族とともに手話を習得できる機会の確保などを盛り込んだ条例が4月から施行されました。手話を自ら使う体験ができるよう府内小中学校に手話講師を派遣することや、府職員向けに手話を学ぶ動画を作成します。



▲聴覚障がい者の方と手話で会話する公明府議

「認可適当」経緯ただす 肥後議員 府議会で参考人質疑 再申請の制限求める

学校法人森友学園(大阪市)の小学校設置認可をめぐる問題で肥後洋一朗議員(政調会長・寝屋川市選出)が3月23日、府議会本会議で府の私立学校審議会会長を務める梶田観一・奈良学園大学長に参考人質疑をしました。

肥後議員は「条件付き認可が適当」との答申が出された経緯につき「委員が納得した上での判断か」とただしました。梶田会長は「条件を満たさなければ認可をストップさせられるということなので、誰一人反対はなかった」と明言しました。

また、肥後議員が認可申請に関し不正が疑われる場合、一定期間再申請そのものを制限するなど再発防止策を講じるべきと指摘したことに対し、梶田会長は再申請を受け付けないなどの規則変更を私学審議会に提案する考えを述べました。

法定協設置 継続審議に 大阪市の再編を巡り

大阪市を廃止し特別区に再編するための制度設計を議論する法定協議会の設置議案について、公明党府議団は3月24日の府議会本会議で継続審議を求め、賛成多数で継続となりました。

意見を表明する同日の討論で、今議会に提案されている法定協議会の規約案は「運営に混乱を極めた前回と基本的に同じもの」と指摘、「前回協議会の反省に立ち、混乱を繰り返さないように規約案を見直す必要がある」との考えを示しました。